

グリーンサークル34号

クローズアップ 川添 修
 活動団体紹介 「こどもまつり」を終えて（竹細工）
 講座紹介 朴葉寿司講座
 多摩市みどりのかわら版 吉井 和弘



～クローズアップ～

多摩市の公園緑地の魅力発信にむけて

スイカズラ

多摩グリーンボランティア森木会 会長 川添 修

今年、3月27日に「多摩市観光まちづくり交流協議会」（以下、「協議会」と記します。）が発足しました。

協議会の目的は、「多摩市の魅力の向上、来街者の増加等を図るための取組みについて協議するとともに、「協議会」の会員が相互に連携して事業を行うことにより、多摩市の観光振興及び定住促進並びに地域経済の活性化に寄与する」としています。

本「協議会」の多摩市における所管部署は、市民経済部経済観光課です。

「協議会」は、多摩市内の企業や団体等15者が最初の会員として創設されました。

会長はサンリオピューロランドの館長で、副会長はせいせき観光まちづくり会議の座長と帝京大学の経済学部観光経営学科准教授が務められています。

私たち「多摩グリーンボランティア森木会」が参加することとなったきっかけとしましては、私が6・7年ほど前から、多摩市内で活動されている様々な団体や人々、農家やお菓子屋さん、などなど魅力いっぱいの方々がいらっしゃることを、なんとか多摩市のみどりと合わせて発信できないかと思い「多摩市グリーン

ツーリズムによるまちの活性化」企画案として、提案していたことに始まります。

「多摩市グリーンツーリズム」は、多摩市でも少子化・高齢化が進む中で、いきいきとした明るい街の持続を可能とする、一つの手法として提案したものでした。

多摩市では、平成28年に経済観光課で企業や市民団体、関係機関等による「多摩市観光振興」に関する意見交換会が開催され、そこに私も参加させて頂いたことから、その流れで市民団体として「協議会」の会員となりました。参加会費は、当面無料です。

「多摩市観光まちづくり交流協議会」の名称は、地域資源の発掘や賑わいの創出、魅力発信など、観光という枠組みを通じたさまざまな活動が、多摩市のまちづくりにつながっていることを意識しています。

また「交流」につきましては、企業や市民団体、大学などまちづくりや観光に関わりのある会員が、相互に協力していくことや、市民・在勤者・在学者・来街者同士の交流、異文化の交流、世代間の交流など、多様な価値観や魅力を持った人々がお互いを理解しあい、楽しみながら交流していくことを目指しています。



(株)JTBのCSR活動への協力風景 平成30年11月11日実施

「協議会」の当面の事業計画案としましては、①会員相互の情報交換及び連絡、②多摩市の魅力や観光資源に対する会員内での理解促進、③魅力の発信方法についての整理、④既存イベントでの新たな魅力づくりの検討、⑤協議会として新たな連携事業の検討（多摩市の魅力を発見するツアーを複数検討など）です。

この中で、私たち多摩グリーンボランティア森木会が大きく関わる事業としましては、②や⑤の事業で、



多摩グリーンボランティア森木会などのガイド付きイベントに会員各社社員が参加したり、来街者向けのツアーにガイドとして対応したりすることも想定されます。

多摩グリーンボランティア森木会の、皆様の力をお借りしながら、多摩市のみどりを主体に「多摩市の観光まちづくり交流」に寄与して行きたいと思っておりますので、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



～活動団体クローズアップ～

私と竹細工

一本杉公園みどりの会 高野 勉

平成2年(1990年)に、多摩センターの多摩中央公園東側に、緑に関係する中心的な拠点として、グリーンライブセンターが開所しました。それ以来、お世話になっております。

その運営に、私の団地のSさんが関係したことで、少しでも来所者に興味をもってもらおうと、団地の緑化クラブの工作の得意な人たちを中心に、「竹馬・竹ポックリ・水鉄砲」等を作って置き、遊んでもらいました。又、センター内では、植物に関する講座の他に、工作教室も実施するようになりました。

工作教室で使用する材料は、身近にある自然の樹木・竹・植物の実（ドングリ・花のタネなど）を使用しました。

8月は夏休み自由研究の工作をし、10月はドングリなど植物の実を使用した工作、12月はつるなどを使用したリース作り、正月用のミニ門松づくりを実施しました。それからしばらくして、5月の連休に、子供を中心としたお祭りをしようということになり、「こども祭り」をすることになりました。

こども祭りでは、子供たちが楽しく参加できるものとして、竹細工をすることになりました。竹馬・竹ぼ

っくり・水鉄砲・竹トンボ・シノ竹笛などを作り、子供たちに楽しんでもらいました。

しかし、参加者は不特定の子供達で、「ケガ」が心配であり、現在は、工作の簡単な「竹ポックリ」・「シノ竹笛」を作っています。

私自身、なぜ工作に興味を持ったかといえば、実家が農家で、竹林・樹木に囲まれて育ち、遊びといえばこれらを活用、加工していたため、工作は昔から、自分の生活のそばにありました。

グリーンライブセンターの運営が始まって間もなく、こんな話を聞いたことがあります。

北政の方が来所したとき、竹林をみて、「あれは何の木か、又、何年くらいであのように高く成長するのか」との質問があったそうです。あれは竹で、1年で成長しますと答えると、「信じられない」とのことでした。

竹の魅力は、食の筍、伝統工芸品、利用価値も広く、手軽に入手出来、いろいろと工作できることではないでしょうか。現在こども祭りで実施している、「シノ竹笛・竹ポックリ」の他、竹馬・水鉄砲・紙でっぽう・竹トンボ・竹コップ・弓矢・ミニ門松など、いろいろ工作できます。使用する竹の種類は身近にある孟宗竹・真竹・淡竹・篠竹など、大小いろいろあります。

しかし、最近竹細工などの得意な身近な人が、だんだん少なくなっています。

私自身、竹細工を続けてこられたのは、子供たちが自分で作った時の喜んだ笑顔を見ることが、長く続けられた要因なのではないかと思えます。幸いにも「多

摩グリーンボランティア森木会」の中に「クラフトプロジェクト」という、工作が好きな方たちが集まった組織も発足し、活動も盛んになってきたので、竹細工も長く活動していけるよう願っています。



高野さん（中央奥）1990年ころ



高野さんが作られた竹細工や手作りの数々

～講座クローズアップ～

朴葉寿司講座をふり返って

亀ヶ谷緑地班 班長 名黒二郎

朴葉寿司講座も今年で4回目となると、亀ヶ谷緑地班の班員各々の分担も明確になって、大分スムーズに事を運べるようになって来たが、今年は連休中の5月3日に緑地を巡回して、どの枝からどれくらい取れるかと思案していたら、翌4日に多摩市を雹が襲い、朴葉は無残な姿になってしまった。亀ヶ谷緑地では2か所に数本ずつホオの木が生えているが、両方ともに被害は大きかった。

どうしたものかと思案していたら、散歩の途中によこやまの道に良いホオの木があるのに遭遇して、他の班から協力してもらおう事にしようと思い、少し気分が楽になった。和田緑地の会からも朴葉寿司講座を開く予定を聞き、ここからも採集に力を貸してもらおう事にした。

講座直近の金曜日によこやまの道で採集を行ったが、普段、亀ヶ谷緑地班で立ち入りしていないエリアにホオの木があるのを確認して、翌日の活動日に実地検分を行った。

土曜日の活動では、園内通路の点検、急斜面の朴の木へ下る道作り、和田緑地での朴葉採集などを進めて準備を行い、2日間で採集した朴葉を講座会場のグリーンライブセンターで選別、洗浄を行ったが、不採用になるものが多く、他の場所でも採集もお願いした。

講座当日は、受講者を亀ヶ谷緑地に案内して緑深まる姿を見てもらい、雹被害の朴の木を見てもらった。子供たちには背の低い朴の木から高枝鋏を使用して採集する体験をしてもらった。又、実際に梯子に上って採集する所も見てもらった。

朴葉寿司作りでは事務局に具材を用意してもらい、盛り付けの説明をしてから一人2個を作ったが、最終的に一人4個作れたので満足していただいたようだ。

講座も回数を重ねて段取りもスムーズになった。来期も行えるようなら、天候に恵まれることを祈り、今回協力していただいた、森木会よこやまの道班、和田緑地の会他、多くの方々にお礼を申し上げる。



採取された葉は丁寧に洗われます



楽しそうに作る姿も



朴葉寿司

朴葉寿司講座 (ほおぼすしこうぎ)

朴葉寿司とは、美濃地方から木曾地方にかけての郷土料理です。朴の葉に寿司飯、漬物、つくだ煮などの保存性の高いものを包み、保存食とした食べ物です。朴の葉は、香りがよく殺菌効果や防カビ作用に優れます。

亀ヶ谷緑地には大きな朴の木があり、ここから大きな朴の葉を採取し、講座を開催しています。

朴の葉の香りとともに、郷土の味をお楽しみいただける講座となっております。

多摩市みどりのかわら版
市民協働による持続可能なみどりの構築を
多摩市環境部長 吉井 和弘

環境部長の吉井です。日頃からのご協力に感謝申し上げます。

この五月、平成から令和へと時代が移りました。日本中が新たな時代を迎え言祝いでいる大型連休の間、大分溜めていた美術館巡りをさせていただきました。その中でも、元号の出典元とされている「万葉集」の…初春令月 氣淑風和…の書も幾つか目にしました。昨今、花見と云えば「桜」ですが、これからは「梅」にも注目が集まるかもしれませんね。そういう意味からも、多摩中央公園の梅の谷やくつろぎの広場も、改めて役割が見直されてくるかもしれませんね。

さて、多摩中央公園を巡っては、公園内施設として「パルテノン多摩大規模改修」と「図書館本館再整備」が先行して進められており、公園自体も改修に向けた市民アンケートやワークショップなどを行い、改修に向けた基本方針のとりまとめを行ったところです。

今後は、グリーンライブセンターを含めた公園改修のための基本・実施設計を行っていくとともに、多摩センター地区の活性化に寄与し、市民力を活かした公園管理運営となるよう、民間の力の導入も併せて検討していく予定です。

恵泉女学園大学とともに担っていただいているグリーンライブセンターの管理運営や公園のみどりの管理の一部は、引き続きグリーンボランティアの方々のお力をお借りしていきたいと考えております。このため、市としてもボランティアの育成・支援に努めるとともに、PRなどの情報発信を行っていききたいと思います。

さらに、より積極的に公園管理に携わっていただき、持続可能なみどりの構築を進められるよう、本年度から始まる「多摩市総合計画第3期基本計画」の重点的な取り組みに位置付けていく予定です。

暑い季節を迎えますが、今年も事故がなく、みなさんが安全で、楽しみ、みどりに関わる活動が健幸まちづくりの一躍を担っているとなるような一年にしていきたいと思っておりますので、本年もよろしくお願ひ申し上げます。



多摩中央公園の今後に期待がかかります！

表紙の絵 「スイカズラ」 絵・内城葉子

林縁などに絡みついて甘い香りの花を咲かせます。白からだんだん黄色くなり、白と黄色が同居します。そんなことから金銀花の別名もあります。
 <プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など
 <所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表
 <著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信
 グリーンサークル34号
 発行日：2019年7月15日
 編集・発行責任：
 多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局
 〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園
 多摩市立グリーンライブセンター内
 電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087
 ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>